



祝

佐敷城跡 国の史跡指定へ

佐敷城跡国の史跡に

平成19年11月16日（金）、国の文化審議会（石澤良昭会長）は文部科学大臣に対し、佐敷城跡を国の史跡（国指定文化財）に指定するよう答申を行いました。今年度末には正式決定となる運びで、県内の城跡としては、7例目で八代、天草、水俣、芦北地域では初めての指定となります。



町の品格



このたび佐敷城跡が先に開催された国の文化審議会において、国の史跡に指定するよう文部科学大臣に対し答申が行われ、今年度中には正式に指定される運びとなりました。これは、佐敷城跡が我が国の歴史・文化を考えるうえで欠かすことの出来ない貴重な学術的遺産であることを、国として認めるものであり、我が町の誇りとすべきものです。

思い起こしますと、平成5年から8年間に及ぶ発掘調査では、城山一帯から400年前当時の石垣群やのちに熊本県指定重要文化財となる「天下泰平」銘鬼瓦等の貴重な出土遺物が発見されるなど我々を驚かせました。その後、当時玉名市立歴史博物館館長で佐敷城跡保存整備検討委員会委員長の（故）田邊哲夫様や現熊本大学名誉教授の北野隆様、当時国立八代工業高等専門学校教授の佐藤伸二様をはじめとする多くの方々のご指導とご協力により、史実に沿った整備を実施し、平成10年3月には熊本県史跡の指定を受けました。

現在では、佐敷地区の歴史的景観の中心的存在として、また観月会など伝統文化の発信地として県内外から多くの方々が訪れ、町を代表する文化、観光資源の一つとなっています。

このような中で、適正な維持管理に努

花岡の両地区にまたがる城山（しろやま）に築いた城で、佐敷城のように国境を守るために築かれたお城のことを、「境目の城」といいます。

築城されたのは1580年代後半と考えられ、天正20年（1592年）に、島津氏家臣の梅北国兼に佐敷城が乗っ取り

れる事件（梅北の乱）が起こった時には、完成していたようです。関が原の合戦の際には、島津氏に攻撃されるなど幾度の合戦を経験し、慶長12年（1607年）には改築が行われるなど整備されますが、元和元年（1615年）に廃城となり、天草・島原の乱（1637年〜38

年）の直後にも、一部の石垣が残っているという理由で再び取り壊しを受けたことが、古文書などの記録により分かっています。その後、江戸時代を通じて細川藩の管理下に置かれ、葦北郡が洪水時には石垣を崩して佐敷川の堤防工事に使ったということです。

やがて、昭和54年に石垣の一部が発見されるまで、350年近く城山の地下深くに埋まっていた。

佐敷城跡関連年表

年号	西暦	出来事
天正 16 年	1588 年	加藤清正、肥後半国の領主となる。
	↕	この頃、佐敷城が築城される。
天正 20 年	1592 年	城代加藤重次、兵を率いて朝鮮に渡る。（文禄の役） 島津家臣・梅北国兼に佐敷城が乗っ取られる。（梅北の乱）
慶長 2 年	1597 年	城代加藤重次、再度朝鮮に渡る。（慶長の役）
	↕	この頃に改築が行われる。
慶長 5 年	1600 年	島津軍の攻撃を受ける。
	↕	この頃に2回目の改築を行う。
慶長 12 年	1607 年	改築が終了する。
慶長 16 年	1611 年	加藤清正、病死する。
慶長 18 年	1613 年	城代加藤重次、病死する。
元和元年	1615 年	一国一城令により、佐敷城廃城となる。
寛永 9 年	1632 年	加藤家、改易され、細川家が肥後藩主となる。
寛永 15 年	1638 年	佐敷城、水俣城とともに2回目の取り壊し。
正保 4 年	1647 年	佐敷町浸水により、佐敷城の石垣を佐敷川堤防造成に使う。
明治 37 年	1904 年	麓に二尊寺が建立され、二の丸に大師堂が建設される。
大正 10 年	1921 年	城山に山桜が植樹される。
昭和 54 年	1979 年	城山公園整備に伴い発掘調査が行われる。石垣や瓦が出土。
平成 5 年	1993 年	本丸周辺の石垣、礎石が出土。
平成 7 年	1995 年	佐敷城跡保存整備検討委員会発足。
平成 8 年	1996 年	天下泰平國土安隠（穏）銘鬼瓦出土。
平成 9 年	1997 年	石垣整備工事開始。 桐紋入鬼瓦出土。
平成 10 年	1998 年	佐敷城跡、熊本県史跡に指定。 天下泰平國土安隠（穏）銘鬼瓦、桐紋入鬼瓦、熊本県重要文化財に指定。 石垣整備工事終了。 佐敷城跡シンポジウム開催される。 佐敷城跡観月会始まる。
平成 13 年	2001 年	佐敷城跡シンポジウム「天下泰平の時代と佐敷城」開催。 この年、発掘調査終了。
平成 16 年	2004 年	発掘調査報告書「佐敷城跡」発刊。
平成 19 年	2007 年	文化審議会が文部科学大臣に佐敷城跡を国史跡に指定するよう答申。



国指定文化財

我が国の歴史上または学術上価値が高いものを文部科学大臣が指定するものです。今回、佐敷城跡が答申を受けました史跡は、貝塚や古墳、城跡などの遺跡のうち重要と認められたもので、国内では松本城跡や関が原古戦場、原爆ドーム、県内では江田船山古墳、人吉城跡などが今までに指定を受けています。



400 年前の絵図（慶長国絵図）に描かれた佐敷城

めるとともに学校教育、社会教育の分野で積極的な活用を図り、先人から受け継いだ貴重な文化遺産を、未来を担う芦北の子どもたちに引継いでいくことが、現代を生きる私たちの責務であると考えます。

今後、品格のある町としての取組みが期待されます。

佐敷城跡

佐敷は古くからの港町で、また薩摩街道と相良往還が通る交通の要地として非常に重要な土地でした。

佐敷城は、豊臣秀吉の九州平定の後、葦北郡を含む肥後半国の領主となった加藤清正が、薩摩国（現在の鹿児島県）の島津氏に対する備えとして、町内佐敷

出土遺物



朝鮮半島系瓦（李朝系瓦）

「豊臣秀吉の命により朝鮮に出兵した諸大名が使用した瓦。日本に連れてきた朝鮮人瓦工に作らせたものと考えられる。」



天下泰平國土安隠（穩）銘鬼瓦（熊本県指定重要文化財）

「平和な世の中を願う人々の思いが天下泰平の文字に込められている。文字を飾りとした鬼瓦は、全国でも他に出土例がない」



桐紋入鬼瓦（熊本県指定重要文化財）

「縦45cm、横69cmの巨大な瓦で、島津氏を牽制するために佐敷城に飾られた」



慶長十二年銘入軒平瓦

「佐敷城が改築された時期を特定する瓦」



例年秋に開催する佐敷城跡観月会

※写真は本年9月27日の観月会で行われた葦北鉄砲隊と芦北太鼓保存会の共演(写真：上)及び薪能(写真：右)



佐敷城跡観月会